子ども・子育て支援事業計画　（教育・保育の量の見込と提供体制の確保）

確保方策

●１号認定　十分な確保量が見込まれます。

●２号認定　概ね確保量を充足します。

●３号認定　一部の年齢において確保量が計画値に満たないため、新たな確保方策を検討し、市内民間保育施設との調整・支援に努めます。

区　分 1号認定(3歳以上:認定こども園、幼稚園) 2号認定(3歳以上:認定こども園、保育所) 3号認定(3歳未満:認定こども園、保育所、地域型保育事業)				2025(令和7)年度 【計画値】目標 A	確保量 B	計画値との差 B−A	自己評価	令和7年度の状況・分析	確保方策の進め方	所管
1号	①量の見込（確保されるべき量）			357	399	42	B　概ね計画どおり実施	直近５年間で毎年平均70人ずつ減少してきた需要量がほぼ横ばいとなった。ニーズの変化なのか、保育保留者が代替的に利用しているのか、次年度以降の傾向を慎重に調査・分析していく。	➤十分な確保量が見込まれるが、こどもの人口増減の動向を注視しながら対応していく。	保育幼稚園課
	②確保方策に基づく量（確保できる量）	特定教育・保育		724	724	0				
		確認を受けない幼稚園		—	—	—				
		合計		724	724	0				
	③過不足（②−①）			367	325					
2号	①量の見込（確保されるべき量）			597	605	8	B　概ね計画どおり実施	評価はＢであるが、望ましい状況とは言い難い。 対象人口が５％近く減少した一方、需要量・入所率ともに増加した。人口は減少が見込まれているが、需要量は高いまましばらく推移することが想定される。	➤計画期間早期に確保が可能となり、概ね確保量の充足が見込まれるが、こどもの人口増減の動向を注視しながら対応していく。	
	②確保方策に基づく量（確保できる量）			571	574	3				
	③過不足（②−①）			▲26	▲31					
3号	0歳	推計 242人	①量の見込（確保されるべき量）	113	137	24	C　計画を下回って実施	出生数は減少を続けているものの、年度末時点での０歳児の保育の需要量は依然高く推移している。	➤計画期間開始直後に不足が生じる見込みに転じ、「児童3に対し保育士1」の配置基準により確保量の即時拡大は困難な状況。 ➤国の補助メニューや他市町の施策を参考に、入所希望者への詳細な意向調査による把握・分析を進めるとともに、湖西保育士会と協議しながら、令和8年度内に保育士確保に関する施策の方向性を明らかにする。	
			②確保方策に基づく量（確保できる量）　特定教育・保育	87	87	0				
			②確保方策に基づく量（確保できる量）　特定地域型保育事業	4	4	0				
			②確保方策に基づく量（確保できる量）　合計	91	91	0				
			③過不足（②−①）	▲22	▲46					
			保育利用率	37.6%	37.6%					
	1歳	推計 294人	①量の見込（確保されるべき量）	151	183	32	D　計画を大きく下回って実施	需要量が計画値を大きく上回り、充足数は計画値を大きく下回った。	➤令和8年度末をもって小規模保育事業所1園の閉園が決まっていることから確保量はさらに減少する見通し。 ➤少子化の急速な進行により、特段確保方策を行わなくてもほとんどの年齢で概ね計画期間内の確保が見込まれる。 弾力運用をしていけば、計画期間終期に概ね確保が見込まれる。	
			②確保方策に基づく量（確保できる量）　特定教育・保育	130	130	0				
			②確保方策に基づく量（確保できる量）　特定地域型保育事業	17	17	0				
			②確保方策に基づく量（確保できる量）　合計	147	147	0				
			③過不足（②−①）	▲4	▲36					
			保育利用率	50.0%	50.0%					
	2歳	推計 285人	①量の見込（確保されるべき量）	198	185	△13	B　概ね計画どおり実施	評価はＢであるが、望ましい状況とは言い難い。 需要量は計画値を下回っているものの未だ充足には至っていない。	➤令和8年度末をもって小規模保育事業所1園の閉園が決まっていることから確保量はさらに減少する見通し。 ➤令和8年度は計画通り公立こども園1園の定員拡充を行った。 ➤少子化の急速な進行により、特段確保方策を行わなくてもほとんどの年齢で概ね計画期間内の確保が見込まれる。 弾力運用をしていけば、計画期間早期に確保が可能となる。	
			②確保方策に基づく量（確保できる量）　特定教育・保育	147	147	0				
			②確保方策に基づく量（確保できる量）　特定地域型保育事業	17	17	0				
			②確保方策に基づく量（確保できる量）　合計	164	164	0				
			③過不足（②−①）	▲34	▲21					
			保育利用率	57.5%	57.5%					